

FREE TALK

辻・本郷 税理士法人
本郷孔洋氏の
フリー×トーク



～参考にやるか、
分かりませんね～

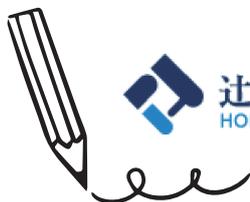


今回の話題は…

- ビジネスモデルの「終わりの始まり」が始まった
- 既存モデルを「シェイプアップ」する
- ビジネスを、隣地や周辺に「転地」していく

会計事務所のビジネスモデルは、今で言うところのサブスクリプションモデルです。サブスクリプションモデルは、手間暇かからないものであればよいのですが、そうでなければこれほど儲からないものはありません。儲からなくなったら、たとえ続いている、終わっているも同然です。その意味では、会計事務所のビジネスモデルは今、「終わりの始まり」にあると思います。◆こうした既存モデルをシェイプアップするために、弊事務所で行っているのは、業務の無人化です。今は、RPAを使えば無人化できる業務がいくつもあります。例えば、請求書の発行業務もRPAが行うことで、今まで二人で2日かけて行っていたものが、今は無人になっています。また、移動コストもばかになりません。移動時間

のかかる会社への訪問は原則止めて、ネットでのコミュニケーションに切り替えていこうと思っています（3万円の顧問料で、2時間もかけて毎月訪問している顧問先も多いのですが、現実には難しいですがね）。これらでおそらく、2割はコストが下がると思います（まだまだ実験中ですが）。手間暇のかかる部分を無人化していく。これが「終わりの始まり」の物語の前編です。◆ただし、シェイプアップするだけでは問題の解決になりません。大事なことは、同時平行でビジネスモデルを変えていくこと、ビジネスを「転地」していくことが必要です。転地する先は、隣地（コンサルティング）、あるいは周辺（会計事務所と言えば給与計算業務など）が現実的でしょう。同じサービスでも「財布の色」が変わると、粗利が違ってきます。これが「転地」であり、物語の後編になります。◆弊事務所でもいくつか試行錯誤をしていますが、私はハラをくくって、人でなければできないところ以外は、限りなく変えていこうと考えています。イノベーションができた企業は大きく成長します。ですから、これから大きく業界地図が変わっていくのではないかと考えています◆



辻・本郷 税理士法人
HONGO TSUJI TAX & CONSULTING

PROFILE ● 1977年、創業者であり現グループ会長の本郷孔洋が、辻・本郷税理士法人の前身、本郷公認会計士事務所を開業。税理士法人1290名、グループ合計1600名の業界を代表する事務所を築く。拠点は全国65拠点。本郷氏は1945年生まれ、岩手県一関市出身。72年に昭和監査法人（現・新日本有限責任監査法人）入所。77年に独立・開業。2016年に会長に就任。東京大学講師、東京理科大学講師、神奈川大学中小企業経営経理研究所客員教授などを歴任。『経営ノート2019』ほか著書多数

※本連載は、辻・本郷税理士法人で定期開催されている会計事務所向けの情報交換会でのミニ講義「フリートーク」の内容を編集してご紹介しています